令和6年度第1回甲賀市介護保険運営協議会 概要報告

1. 開催日時 令和6年8月1日（木）
午後2時00分～午後3時30分
2. 開催場所 甲賀市役所別館101会議室
3. 出席者
委員 栗田会長、今村(陽)副会長、宇田委員、富岡委員、藪下委員
堀井委員、岡田委員、小川委員、服部委員、福西委員、奥嶋委員
合屋委員（出席12名・欠席4名）
事務局 健康福祉部 部長 澤田いすづ
次長 村田稔明
長寿福祉課 課長 森田喜浩
課長補佐 宿里泉、棚橋倫子、中邨雅治
室長（地域包括支援室） 中村美雪
係長 中井浩喜、奥村直美
主任保健師 中村加奈子
4. 傍聴 無
5. 会議次第
 - 1) 開会
会長あいさつ
委員及び事務局自己紹介
 - 2) 議事
 - ①第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画について（令和5年度事業実績及び決算状況）
 - ②第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画について（令和6年度の取り組み）
 - 3) その他
6. 配布資料
 - 【資料1】令和5年度介護保険事業実績について
 - 【資料2】甲賀市第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画（重点事業）進捗管理表当日資料 甲賀市介護保険運営協議会規則
介護保険運営協議会委員名簿

7. 議事の概要

議事

(1) 第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画について（令和5年度事業実績及び決算状況）

事務局 資料1に基づき説明

会長 ただいま説明いただきました件について、ご意見、ご質問等がございましたら挙手をお願いします。

委員 資料の4ページ「エ 認知症初期集中支援チームの周知・活用」の実績報告のうち、令和5年度の新規が0件となっているが、新規の数はあるのか。昨年度、私は水口・土山の支援チームの委員となっていたが、新規の受付があって、デイサービスにつながった事例があったと思う。どのようにカウントしているか。

事務局 新規については、新規を受け付けた場合にカウントしている。本件は、カウントミスの可能性もあるため、確認のうえ、正しい数字を後日回答させていただきたい。

委員 資料の3ページ「③切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進」について、グループホームでも看取りをしていこうということを滋賀県内で推進しているが、その中で、評価がC評価となっている。訪問看護の24時間対応が難しく、訪問看護事業所の数が足りないなど人員不足を聞いているので、そのあたりのことについて教えてほしい。また、甲賀市の中では、在宅介護サービスを提供する人材が不足しているため、C評価となっているのかについても教えてほしい。

事務局 C評価の理由ですが、病院や訪問看護事業所などとの関係構築はできていると思っているが、昨年、ささゆりで実施していた在宅医療推進センターが、閉鎖に伴い設置場所が定まっていなかったため、C評価としている。ケアマネジャーや訪問看護事業所などと密接につながっていて、看取りの支援をいただいていることは知っているが、市としては在宅医療推進センターの設置場所が現在も検討中となっているため、C評価とさせていただいた。

会長 資料の4ページ「認知症施策の推進」の二つのC評価のうち、特に「イ）脳の老化度判定相談事業」について、スクリーニングを実施したことと、専門医療機関につなげるという二つのことが書かれているが、C評価としたのはどちらのことか。あるいは両方のことか。理由を教えてほしい。

事務局 C評価の理由は、個々に相談に来られた方への対応やスクリーニングを、包括支援センターで行っていて、必要に応じて病院などへつなげる体制はとれているが、広く大きくスクリーニングする体制がとれていないことで、C評価としている。

議事

(2) 第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画について（令和6年度の取り組み）

事務局 資料2に基づき説明

会長 ただいま説明いただきました件について、ご意見、ご質問等がございましたら挙手をお願いします。

委員 資料の1ページの「(3) 介護予防の推進」の取り組みの内容で、「民生委員児童委員や区長、健康推進員、自治振興会など地域の組織と連携・協力し」とあるが、どのような連携をしようと考えているか、具体的に教えてほしい。特に民生委員児童委員との関わり方、協力について、どのように考えているのか。

事務局 地域での介護サービスの相談に関する窓口の紹介や助言をお願いしたいと考えている。また、介護サービスを使わずに、地域の中で、家族だけで見守っていかうとされている方がいれば、介護保険のサービスを使うように助言していただくなど、地域包括支援センターにつないでいただきたいと考えている。

委員 地域の方の介護認定の情報など、個人情報をも民生委員児童委員に伝えることができるか。それができるか、できないかで、民生委員児童委員の活動に制約があるのが現実的な問題なので、そのあたりのことをどのように考えているのか教えてほしい。

事務局 介護保険を申請されている方については、包括支援センターやケアマネジャーとつながることが多いので、個人情報名簿を民生委員児童委員の方に提供するという計画は今のところない。民生委員児童委員の方には、そこに至るまでに地域の方々に助言等をしていただくことをお願いしたいと考えている。

委員 例えば介護サービスを受けていない方を民生委員児童委員はどのように知ることができるのか。また、施設入所者などの情報を地域包括支援センターから民生委員児童委員と共有してもらえるのか。このあたりのことができない状況で、このような取り組みを書いても実現できないのではないのか。もう少し具体的に取り組み内容を書かないと、思ったようには進まないのではないのか。

個人情報保護法が制定されて以降、そのような個人情報は民生委員児童委員まで伝わってこない。例えば、必要に応じて市民の個人情報を民生委員児童委員に提供いただけるなど、市独自の仕組みを作ることはできないか。それがあれば、我々の活動もしやすい。こういう情報は、我々に提供できないものか。

委員 高齢者個人の情報は、地域の中を歩いていても、伝わってこないことがある。いきいきサロンなどの活動の中で、本人から話を聞くことで知ることがあるが、なかなか戸別訪問などで確認して回るなどもできないので、市から情報提供があれば動きやすくなる。

委員 高齢者個人の情報はサロンなどで聞いたりするが、なかなかはっきり言ってくださらない場合もあるので、どのように対処したらよいか、助言できない部分もある。参考となるようなデータをいただければ活動しやすい。

会長 この資料は進捗管理表ですので、どこまで具体的に書くかは表の作り方によるので、この管理表自体に対しての問題はないと思われる。

今の議論は、「連携・協力し」ということは当然だが、実際にはそれがうまくいっていない現実があって、例えば民生委員児童委員の活動として個人情報を提供してほしいが、今の法律で提供できないという場合、そこで終わってしまってよいか、ということである。例えば、法令等の制約により提供できない、一方で個人情報を提供してもらえないと活動ができない、という状況になった時に、それぞれの問題点を出して行って、何が問題になってい

るかを整理したうえで、現在、連携・協力できていない問題点の中に個人情報のことがあるのであれば、法令の範囲内で、実際に必要とされているところに提供していくにはどのようなことをしていけばよいか。これらのことを民間と行政で協力して解決していくことで、次のステップに進むことができるのではないか。

第9期計画書の92ページにPDCAサイクルが記載されている。評価して見直すことが大事であるが、評価するには問題点を出さないといけないので、よかった点を評価してA・B・C評価することは大事だが、細かな問題点を拾って、単純に法的にできる・できないではなくて、できないのであればどこでするかということ住民の方と一緒に、団体や行政も入って考えていくことが必要で、毎回評価だけで終わってしまったらもったいない。個人情報の問題もいろいろ出たが、できる方法はあると思うし、他の自治体でもしているところはあると思うので、具体的に考えていければと思う。

事務局 いただいた意見を他部局とも共有し、今後の具体的な取り組みについて検討させていただく。また、民生委員児童委員の方が気付かれた情報は、長寿福祉課や地域包括支援センターにも入れていただきたい。市としても出せる情報があれば情報共有させていただく。

会長 個人情報でも本人の許可があれば出せると思うし、それらも含めて細かい手続きなどもあると思うが、課題を整理することである程度の対応はできるのではないか。

委員 介護認定申請の際に、民生委員児童委員への情報提供について同意をもらっておいてもらえるといいのではないか。

会長 作業量が増えると大変ではありますが、できる限りよりよい方向になるよう検討いただければと思う。

委員 認知症施策の関係で、病院からは、認知症があると入院ができない、入院期間が短くなる、また、早く退院を促され介護施設で対応するように促されたりする。家族にとっては、しっかりと治療してもらいたい、原因を知りたいにも関わらず、認知症の方に対する対応が看護師ではなかなか難しいなどから、入院させてもらえない現状がある。医療だけではなく、介護の方もしっかり対応いただける病院を考えてほしい。認知症の方も増えてくる中で、病状があるにも関わらず、認知症を理由に病院で診てもらえないなど、医療だけでなく、医療と介護も対応いただけないのかと思っているが、ご意見をいただければと思う。

副会長 委員のご指摘は、甲賀市だけでなく、日本の医療の結果として、このようになっている。医療保険と介護保険は同時に使えない制度となっていて、どうしようもない。ただ、先程も会長が言われていたように法律ではそのようになっているが、地域で知恵を出し合ってやっていくということが、大きな課題であると思う。また、病院の方も、介護のことを詳しくわかっていないことがある。例えば、在宅介護の状況など医師自身もよくわかっていないこともあるので、病院としても参加していただけるような会があってもいいのではないかとも思う。市としても、長寿福祉課と医療政策室との連携があまりうまくいってないようにも感じられる。医療と介護は一体化していかないといけないので、是非とも官民協力して、いい知恵を形成していければと思う。

委員 グループホームは看取りをやっていないので、重度になると次の施設を探

していただくが、病気の治療などは介護施設では説明ができない、また病院からもあいまいな説明をしてしまうと、次の施設にも情報がない、行っても行った先でもトラブルにならないように、連携するということがどういうことなのかを含めて話し合える場があればいいのかなと思う。ただ単に、情報共有だけで連携というのではなくて、利用者・患者などが満足してもらえるような連携をとっていきたいと思っている。

委員

一つ提案がある。行政と施設、医療と介護にしても、日頃の関係性が重要であると思う。そのような関係性を築いていくために、それぞれが努力をしていかないといけないし、それができると本当にスムーズにいくと思うのでそのあたりを進めていければと思う。

また、これまでの全体を通して、課題抽出をした後のフィードバックができていないと感じている。医療と介護の中でも、毎月1回そのようなカンファレンスをしていこうかというようなこともお互いにできることなので、そのようなことをしていきたいし、行政と民生委員児童委員でもやっていくと少しでも関係性もよくなり、問題・課題が一つでも解決していくのではないかな。

会長

現状、医療のことは制度上の問題があって、できないことをそのままにしておくと、何も変わらない。大事なことは、困っていることから話し合う、制度外でできることはないかなど、お互い解決策を探す機会をつくるのが本当の連携だと思う。その連携の中で、一つでも新しい仕組みを作ることができれば、国などにも制度を変える要望をしていく証拠にもなる。是非困ったことを集めて話し合うと、お互いに変えることができるものが出てくるのではないかな。一度では無理ですが、一つずつ取り組めればと思う。

事務局

課題の提起をしてもらったと認識している。また、医療と介護の連携についても、ご指摘いただいたとおり行政内でも連携がとれていない現状がある。問題提起していただいた内容について、皆様のお力もお借りしながら、解決策を探していきたい。

委員

別で協議している地域福祉計画とこの介護保険事業計画とをしっかりとリンクさせるように気を付けてほしい。

その他

事務局

次回協議会は2月7日（金）の予定です。
正式には、年末年始頃に通知予定。

・会議内容の公開又は非公開について

事務局

本日の会議内容の公開・非公開について、当協議会は市の附属機関にあたるので公開が原則となる。本日の会議で個人情報等非公開にしなければならない内容は含まれていないのですべて公開とし、議事録での発言者は個人名ではなく委員として公開することとしてよろしいかな。

委員

了承